

2025年度 商学部 新入生向けガイダンス



2025年4月

商学部 学士課程教育専門委員



HITOTSUBASHI
UNIVERSITY



このガイダンスは『学士課程ガイドブック』の記載に基づいて行われますが、正確な内容については『学士課程ガイドブック』を必ず確認して下さい。『学士課程ガイドブック』の記載内容が本日のガイダンスの内容よりも優先されます。さらに、『履修規則』が『学士課程ガイドブック』よりも優先されます。

※『学士課程ガイドブック2025』をご確認ください。

目次

- 商学部の概要
- 商学部教育科目と履修上の注意
- 卒業後の進路

商学部のミッション・ステートメント



**WE FOSTER CAPTAINS OF INDUSTRY
WHO CREATE VALUE FOR BUSINESS
AND SERVE COMMUNITIES IN ASIA.**

商学部(および大学院)のすべての授業は、これら3つの
Missionを達成するために行われている

商学部のディプロマポリシー

- 1875年に「商法講習所」として開設された一橋大学は、その前身である東京高等商業学校・東京商科大学の時代から、強い使命感と客観的な分析力、深い思考力を備えた高度専門職業人を育成し、日本のみならず世界の経済社会の発展を支えてきました。2021年にはマネジメント教育の国際認証AACSBを国公立大学で初めて取得しています。
- 世界で最も長い歴史をもつビジネススクールのひとつとして、その伝統を直接受け継ぎ、企業や市場に関連した現象に対して進んで関心を持ち、それを深く観察することで解決すべき問題を設定し、社会科学的思想・理論と現実が生じる事象との往復運動を繰り返しながら問題に対する創造的な解を導き、さらにそれを実行に移せる人材の育成を使命としています。
- こうした人材は、①深い洞察と効果的なコミュニケーション・スキルを併せ持つリーダーシップ、②高度な専門的スキルに支えられた創造性、③他者を思いやりグローバルな視野を持つ高い倫理性や高潔な精神を備えていなければなりません。
- 商学部における学習を通じ、学んだことを単に知識のレベルにとどめるのではなく、直面する問題の解決に向けその知性を創造的に総動員できる「強い実践志向」と、使用する言語や文化的背景の相違に制約されることなく自らの能力を発揮できる「高い国際性」を兼ね備えた人材として、国内外で社会に貢献し活躍していくことが期待されます。

歴史のなかの商学部

- 1875(明治8)年 商法講習所の開設
東京商業学校、高等商業学校、東京高等商業学校を経て
- 1920(大正9)年 東京商科大学となる
- 1949(昭和24)年 一橋大学となり、商学部、経済学部、
法社会学部の3学部をおく

【商法講習所】

森有礼や渋沢栄一らが「これからの日本経済にとっては商業教育が不可欠」と考えて設立・支援した、現在でいうビジネススクール

【東京商科大学】

日本で最初の官立単科大学(商学部・予科・商学専門部・商業教員養成所)

【商学部】

東京商科大学の衣鉢を継ぐ深い伝統
現在の一橋大学の改革を牽引する先進性(歴史を作る)



Hitotsubashi University

商学部の基本方針

- 学年進行に合わせた段階別の学部教育科目
 - 学部導入科目(100番台科目)
 - 学部基礎科目(200番台科目)
 - 学部発展科目(300番台科目・一部400番台科目)

- 4年間にわたるゼミ教育(少人数教育)
 - 1年次:導入ゼミナールⅠ 導入ゼミナールⅡ
 - 2年次:前期ゼミナールⅠ 前期ゼミナールⅡ
 - 3・4年次:(後期)ゼミナール

- 国際化の促進
 - Global Leaders Program(GLP)
 - 渋沢スカラープログラム(SSP)

講義とゼミの風景

大講義の風景（コロナ前）



ゼミの風景（コロナ前）



商学部の主要4領域とゼミナール

経営学

どのような事業戦略を展開するか？

マーケティング

どのような製品を企画して、販売するか？

会計学

その結果どのような成果を達成したか？

金融論

そのために必要な資金をどのように調達するか？

■ 1年次に5つの必修の入門科目を履修する

- 経営学入門、マーケティング入門、会計学入門、金融入門、ビジネス・エコノミクス入門

■ ゼミナール(ゼミ)の概要

- 1897年(明治30年)にすでに原形があり、1904~1918年の福田徳三先生による千駄ヶ谷読書会で確立されたとされる
- 1920年に公式な制度としてのゼミナールが開始
- 特に商学部はゼミ教育に力を入れている(4年間の必修)

海外留学:大学の制度

■ 一橋大学海外派遣留学制度

- 如水会(本学の同窓会)などの支援により、海外の大学で学ぶ機会を得られる制度。渡航費・生活費などを支給される。
- 英語圏の大学は特に競争率が高いので、1年次から計画的に学修を進め、TOEFLで高得点を上げておく必要がある。

■ 短期研修(短期海外研修／海外語学研修)

- 大学が主催する短期滞在プログラム(約1ヶ月)。
- 費用は自己負担

※詳細については、『学士課程ガイドブック』や、国際教育交流センターのホームページ等を参照

英語が得意か不得意かを問わず、
TOEFL(iBT)やIELTSは必ず受検して、自分の
英語のレベルをチェックする。

目次

■ 商学部の概要

■ 商学部教育科目について

- 基本骨格
- 履修上のポイント
- その他

■ 卒業後の進路

商学部教育の基本方針

- (1) 学年進行に合わせた段階別の学部教育科目
- (2) 4年間にわたるゼミ教育
- (3) 国際化の促進

1) 基本骨格 学年暦と時間割



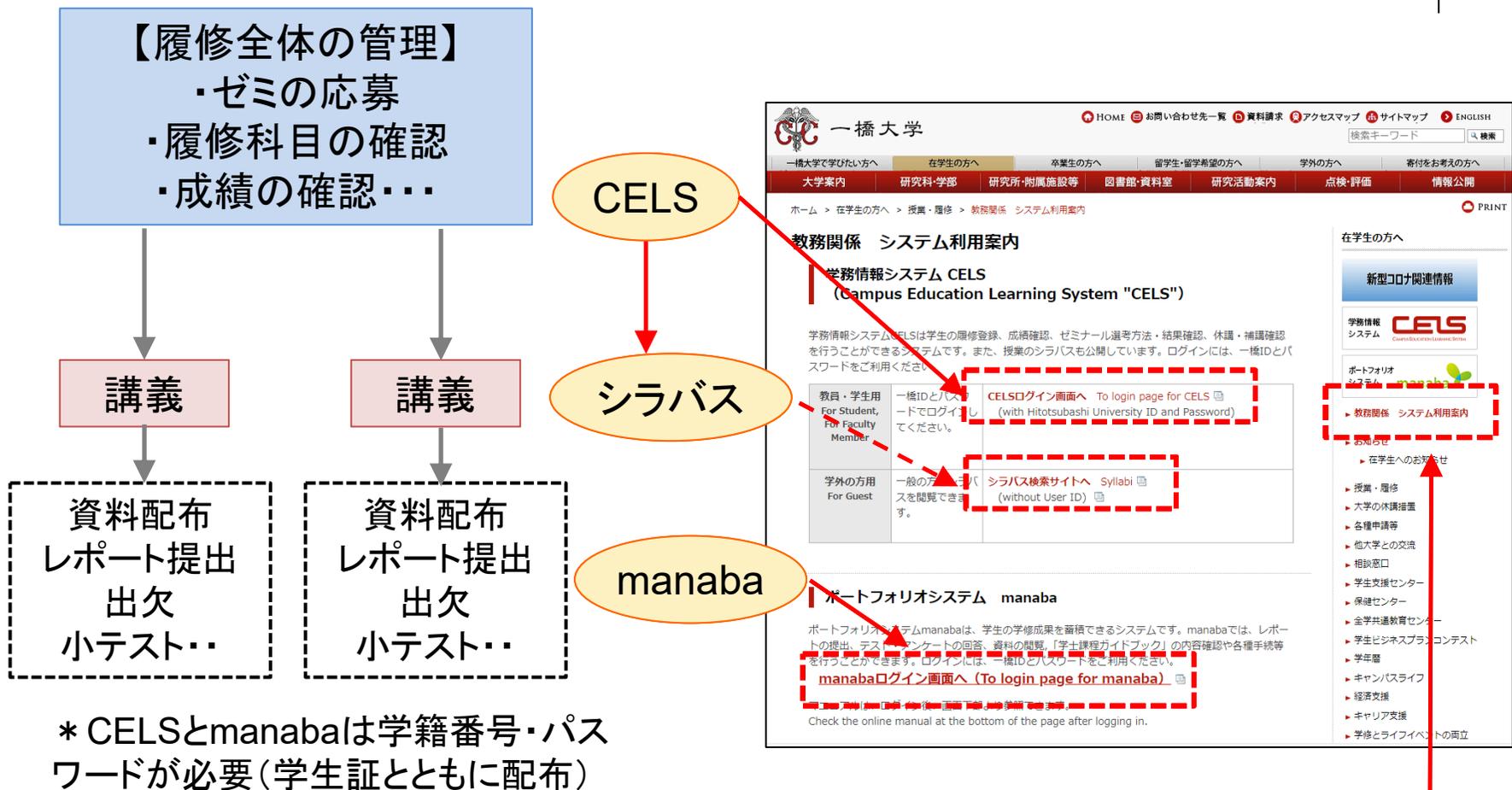
春学期	4月10日～5月31日
夏学期	6月2日～7月23日
秋学期	9月15日～11月1日
冬学期	11月3日～12月27日

時限	時間
1限	8:45～10:30
2限	10:45～12:30
3限	13:15～15:00
4限	15:15～17:00
5限	17:10～18:55
ライブ配信	19:45～21:30
オンデマンド配信	講義ごとに指定

「学年暦」 <https://www.hit-u.ac.jp/kyomu/calendar/index.html>

1) 基本骨格

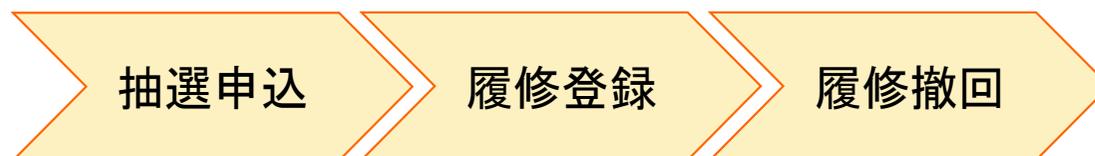
CELS、manaba、シラバス



ホーム → 在学生の方へ → 右側の「教務関係 システム利用案内」

1) 基本骨格

履修登録期間と抽選科目申込期間



■ 履修登録期間(春夏学期・夏季集中・通年)

➤ 4月9日(水)～16日(水)

■ 抽選(web)科目申込期間

➤ 第1回:4月3日(木)9:00～4月4日(金)12:00(正午)

結果発表:4月7日(月)15:00

➤ 第2回:4月7日(月)17:00～4月8日(火)14:00

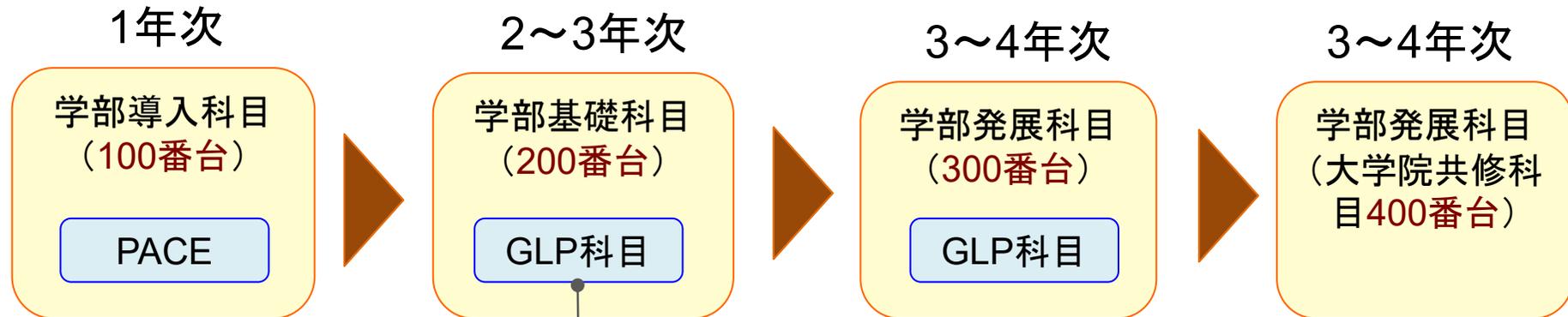
結果発表:4月8日(火)20:00

■ 履修撤回期間

➤ 4月23日(水)～4月29日(火)

「行事予定」<https://www.hit-u.ac.jp/kyomu/calendar/index.html>

1) 基本骨格 科目区分



学部基礎科目のGLP科目については、SSP参加
学生と交流学生のみ2年次から履修可能

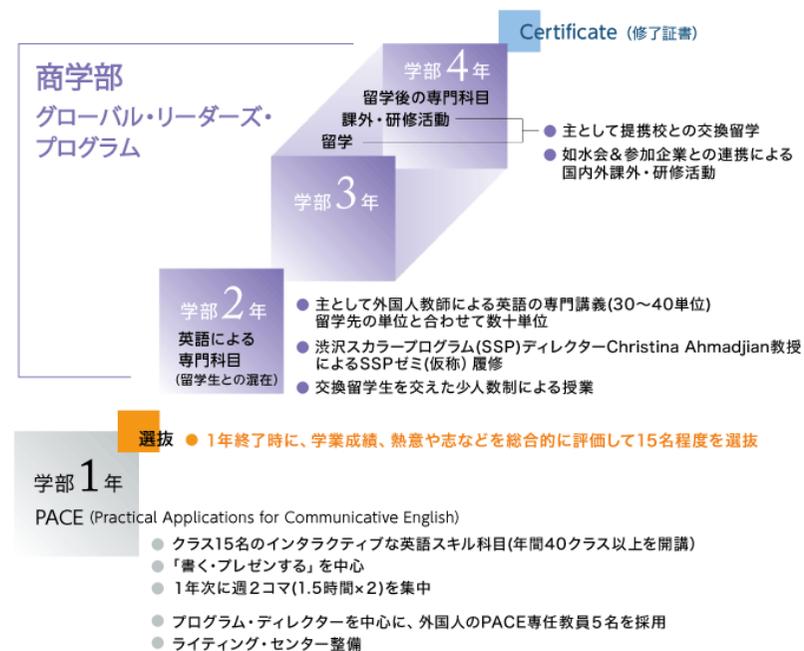
科目ナンバリング 例: BU-A101-A-01

1: 学部導入科目 2: 学部基礎科目 3: 学部発展科目
4: 学部発展科目(大学院共修科目)

<https://www.cm.hit-u.ac.jp/learning/> およびCELS内「学士課程ガイドブック」

1) 基本骨格 GLPとSSP

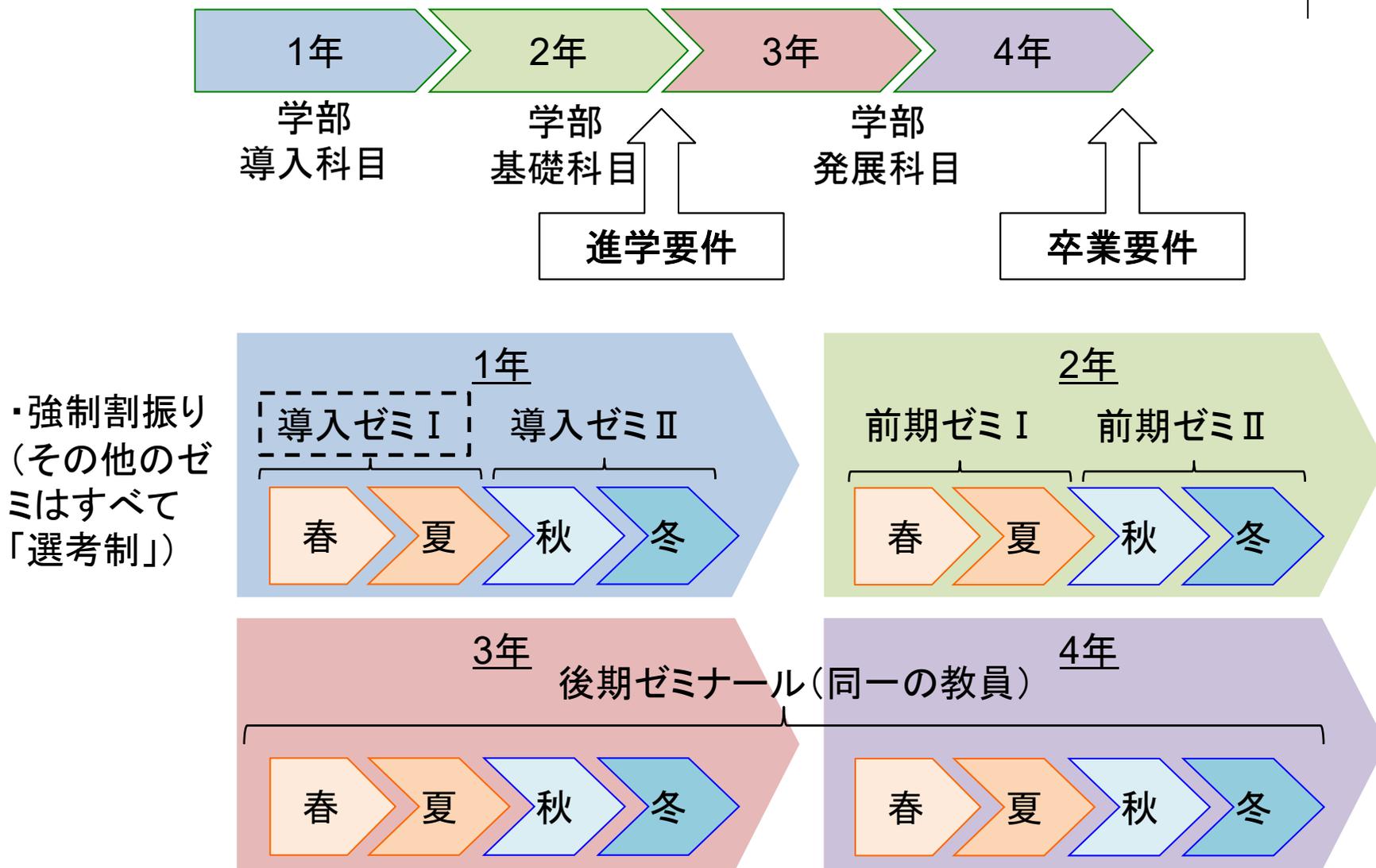
- 1年次は「PACE (Practical Applications for Communicative English)」が必修。1クラス15人週2回の英語スキル科目。
- 1年終了時に学業成績などを評価して15人程度をSSP(後述)に選抜。



SSP <https://www.cm.hit-u.ac.jp/learning/ssp/index.html/>

1) 基本骨格

講義と各種ゼミナールの全体イメージ



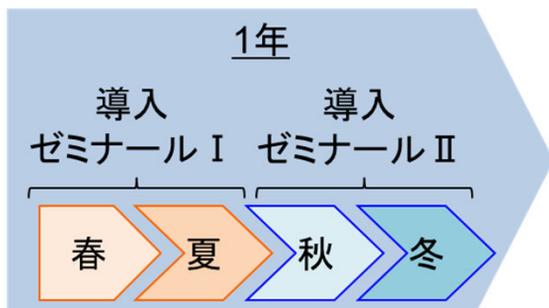
2) 履修上のポイント 1年次

■ 導入講義をできる限り修得すること。

- 経営学入門
- マーケティング入門
- 会計学入門
- 金融入門
- ビジネス・エコノミクス入門

■ 導入演習を落とさないこと。

- 導入ゼミナール I
 - ・ 自動的に割り振られる
- 導入ゼミナール II
 - ・ 選考制



(3) 商学部生の履修モデル

	学部導入科目 (100 番台)		学部基礎科目 (200 番台)	学部発展科目 (300 番台) (大学院共修科目(400番台)を含む)	ゼミナール (演習) (800 番台)
	導入講義	導入演習			
前期課程	1年次	経営学入門 マーケティング入門 会計学入門 金融入門 ビジネス・エコノミクス入門	導入ゼミナール I・II		
	2年次		前期ゼミナール(英吉講読) I・II	経営組織論 経営戦略論 経営史 企業と倫理・社会 ビジネス・エコノミクス基礎 I・II	現代ビジネス論 特別講義(企業経営分析) 特別講義(会計プロフェッショナルの実務)
後期課程	3年次			消費者行動 マーケティング・マネジメント 簿記システム 財務会計(中級) 原価計算 管理会計 マクロ金融論 コーポレート・ファイナンス 資産価格論 学部 GLP 科目の一部	労務管理論 国際経営 イノベーション・マネジメント 学部 GLP 科目の一部 特別講義 寄附講義 企業金融特論 監査特論 など
	4年次			自身の関心に応じて履修してください。	自身の関心に応じて履修してください。 後期ゼミナールは、原則として同じ指導教員の下で、2年間継続して履修することになります。

**「学士課程ガイドブック2025」
p.107「商学部生の履修モデル」
⇒CELSの「ダウンロードセンター」から入手可能**

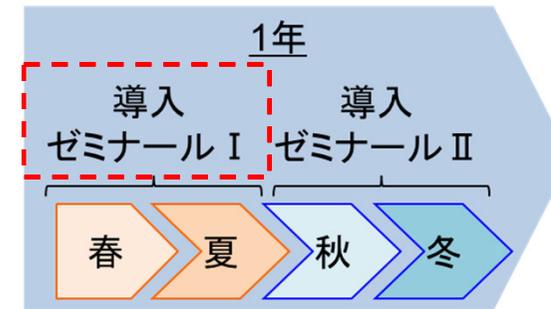
する必要があります。 1年次にできる限り修得しておくことをお勧めします。	I・IIを全て修得する必要があります(合計8単位)。	
---	----------------------------	--

2) 履修上のポイント

1年次: 導入ゼミナール I

■ 科目の位置付け

- 商学部1年次を対象
- 春夏学期 必修科目



■ 目的

- ビジネスを通じて社会を見る視点を涵養すること、自ら問題・課題を設定し、調べること
- 社会、特にビジネスへの関心を喚起し、これからの商学部の学びの面白さを理解すること
 - 各ゼミ担当教員が、テキストを1冊を指定し、その内容に基づいて、自ら課題を設定し、自分で調べる
 - 毎回、テキストの内容について簡潔な要約を作成する

■ 新年度の導入ゼミナール I のクラスは、各ゼミ16名以内

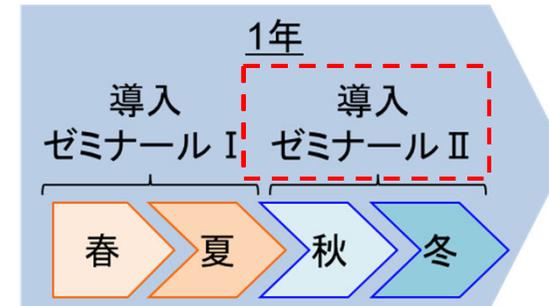
- クラス分けは割当制
- **クラス分けの結果については、各自CELSで確認すること**

2) 履修上のポイント

1年次: 導入ゼミナールⅡ

■ 科目の位置付け

- 商学部1年次を対象
- 秋冬学期 必修科目



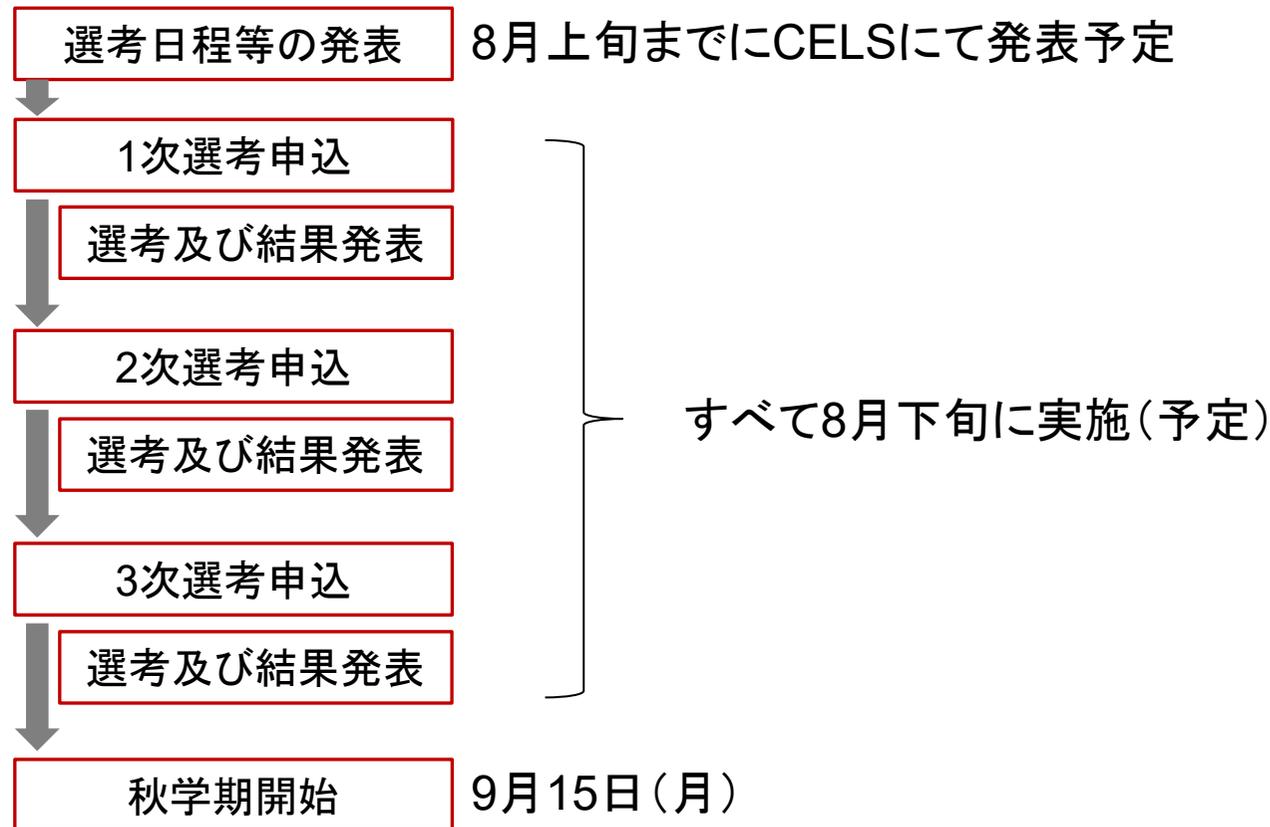
■ 「学問を議論する」ことを目的とする

■ 「参加願」提出による選考制

- 教員によって内容が異なるので、シラバスやCELSを確認する
- 各ゼミの定員は原則16名
- 参加願の提出や選考結果発表等はCELSを通じて行う
- ゼミ決定後、履修登録されているかどうかをCELSで確認すること

2) 履修上のポイント

1年次: 導入ゼミナールⅡ (選考プロセスの概要)



- 提出期限間際の時間帯は、CELSへのアクセスが集中する可能性がある。時間的余裕をもって参加願を提出するよう、心掛ける。
- 第1次(第2次)選考に漏れた場合は、空き状況を確認のうえ、第2次(第3次)選考に臨む。
- 第3次選考に漏れた場合は、空き状況を確認のうえ、自分で教員に受講を認めてもらう必要がある。

2) 履修上のポイント

2年次: 後期課程への進学

- 積み残し分を解消すること
 - 導入講義・導入演習
- 学部基礎科目を積極的に修得すること
 - 卒業には学部基礎科目から20単位以上を修得する
- 前期ゼミナール I・II を落とさないこと
 - 選考制
 - 落とすと留年
- 数学科目に気を付けること

(3) 商学部生の履修モデル

	学部導入科目 (100 番台)		学部基礎科目 (200 番台)	学部発展科目 (300 番台) (大学院共修科目(400番台)を含む)	ゼミナール (演習) (800 番台)
	導入講義	導入演習			
前期課程	1年次	経営学入門 マーケティング入門 会計学入門 金融入門 ビジネス・エコノミクス入門	導入ゼミナール I・II		
	2年次		前期ゼミナール I・II	特別講義(企業経営分析) 特別講義(会計プロフェッショナルの実務)	
後期課程	3年次		経営組織論 経営戦略論 経営史 企業と倫理・社会 ビジネス・エコノミクス基礎 I・II 消費者行動 マーケティング・マネジメント 簿記システム 財務会計(中級)	労務管理論 国際経営 イノベーション・マネジメント 学部 GLP 科目の一部	自身の関心に応じて、後期ゼミナールを履修してください。
	4年次		学部 GLP 科目の一部 自身の関心に応じて履修してください。	学部発展科目は、商学・経営学分野の専門的トピックや、最新の話題、最先端の研究成果に触れられる場です。	2年間継続して履修することになります。
備考	科目 10 単位を修得する必要があります。1 年次にできる限り修得しておくことをお勧めします。		I・II を全て修得する必要があります(合計 8 単位)。		より。

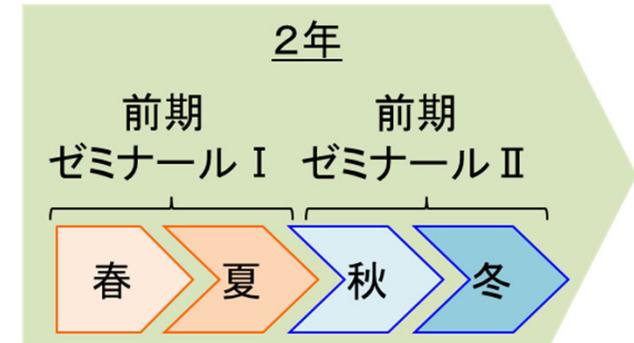
特別講義の一部は学部発展科目であるが、2年次から履修可能

「学士課程ガイドブック2025」
p.107「商学部生の履修モデル」
⇒CELSの「ダウンロードセンター」から入手可能

2) 履修上のポイント

2年次: 前期ゼミナール I・II

- 科目の位置付け
 - 商学部2年次を対象
 - 前期ゼミナール I・IIに分かれている
- 導入ゼミナールで主体的に認識した社会的課題を、学術的に探求することを通じて、研究の面白さの一端に触れる
- 「参加願」提出による選考制
 - 各ゼミの定員は原則16名
 - 参加願の提出や選考結果発表等を、前期ゼミナールI・IIはCELSを通じて行う
 - 選考は春と秋の2回。決定したゼミが登録されているかどうか**CELSで必ず確認**すること



2) 履修上のポイント

1・2年次: 数学科目の履修について

- 商学部の学生には「数学科目」の修得要件がある
 - 後期(3年)進学には6単位、卒業には8単位が必要
 - 数学科目は、すべて**抽選科目のため**、1年次から**余裕をもって履修**
 - 理科や情報科目は「数学科目」に含まれない
 - 商学部生は「**数学概論**」は履修できない
 - 「**統計**」を履修することを強く勧める

- 履修モデル
 - 1年春夏学期: 線形代数Ⅰ、微分積分Ⅰ
(余裕があれば集合と位相Ⅰ、演習科目)
 - 1年秋冬学期: 線形代数Ⅱ、微分積分Ⅱ
(余裕があれば集合と位相Ⅰ、確率、**統計**、演習科目)
 - 2年: 集合と位相Ⅰ、確率、**統計**、演習科目
 - 2~4年: 他の発展科目や学部の数学系科目

2) 履修上のポイント

1・2年次: 後期進学要件について

(1) 商学部

※この要件は、「一橋大学学部履修規則」に基づいて作成している。また各卒業・進学要件区分に該当する科目については、「一橋大学学部履修規則」の別表と合わせて確認すること。

卒業・進学要件区分	卒業(単位数)	進学(単位数)	卒業必須科目(科目区分)	進学必須科目(科目区分)	注意事項
英語コミュニケーションスキル科目	8	8			
外国語科目 (英語・第二外国語(英語以外の初修外国語))	8	6			
数理・情報科目	8	6			
運動文化科目					
その他の全学共通教育科目					
他学部教育科目	6	2			
計(全学共通教育科目・他学部教育科目含む)	30	22			
自由選択の単位	28	18			
学部導入科目	18	14	以下の商学部導入科目9科目を全て修得。 導入演習： 「導入ゼミナールⅠ・Ⅱ」 「前期ゼミナールⅠ・Ⅱ」 導入講義： 「経営学入門」 「マーケティング入門」 「会計学入門」 「金融入門」 「ビジネス・エコノミクス入門」	商学部導入科目のうち、以下を修得。 導入演習： 「導入ゼミナールⅠ・Ⅱ」 「前期ゼミナールⅠ・Ⅱ」を全て修得。 導入講義： 「経営学入門」 「マーケティング入門」 「会計学入門」 「金融入門」 「ビジネス・エコノミクス入門」のうちから3科目修得。	※3 ※4
学部基礎科目	20	0	商学部基礎科目及び商学部発展科目のうちから40単位を修得することとし、そのうちの20単位以上を商学部基礎科目から修得。	必須要件なし。	
学部発展科目	40	0		必須要件なし。	
その他学部教育科目					
主ゼミナール	8	0	主ゼミナールとしての自学部ゼミナール	必須要件なし。	※5
計(学部教育科目)	66	14			
総修得単位数	124	54			※6

「学士課程ガイドブック2025」
p.3「卒業・後期課程進学要件(商学部)」
 ⇒CELSの「ダウンロードセンター」から入手可能

後期課程進学要件チェックシート

後期課程進学要件チェックシート

対象：商学部生（平成29年度以降入学生）

後期課程進学判定時点で、以下の要件が全て満たされていない場合は後期課程に進学できない。

【総合】

- 1. 在学年数が通算で2年間以上である。
- 2. 総修得単位数が54単位以上である。

【商学部が開講する学部教育科目以外の指定】

- 3. 以下の(1)～(4)に挙げた科目全てについて、それぞれの修得単位数が必要単位数以上である。
 - (1) 英語コミュニケーションスキル科目（＝「PACE I・II」）の修得単位数の合計が8単位以上である。
 - (2) 外国語科目の修得単位数の合計が6単位以上である¹。
 - (3) 数理・情報科目のうち数学科目の修得単位数の合計が6単位以上である²。
 - (4) 他学部（＝経済学部、法学部、社会学部またはソーシャル・データサイエンス学部）が開講する学部教育科目の修得単位数および全学共通教育科目として認定された派遣留学特別講義の修得単位数の合計が2単位以上である。

【商学部が開講する学部教育科目の指定】

- 4. 学部導入科目の修得単位数の合計が14単位以上であり、さらに以下の要件全てを満たしている。
 - (1) 導入演習科目4科目の8単位を全て修得している。
 - (2) 導入講義科目5科目のうちから3科目（6単位）以上を修得している。

「学士課程ガイドブック2025」
p.16「後期課程進学要件チェックシート(商学部)」
⇒CELSの「ダウンロードセンター」から入手可能

2) 履修上のポイント

3・4年次

- 取り残し分を解消すること
 - 学部導入科目
 - ・ 導入講義
 - 学部基礎科目
 - ・ 通算で20単位以上を修得する
- 学部発展科目を修得すること
 - 卒業するには、学部基礎科目と合わせて40単位修得する
- ゼミナールに参加すること
 - 自らの興味・関心に従って、最適なゼミを選んで所属する
 - ゼミ選考がある
- 卒業論文を執筆すること。

(3) 商学部生の履修モデル

		学部導入科目 (100 番台)		学部基礎科目 (200 番台)	学部発展科目 (300 番台) (大学院共修科目(400番台)を含む)	ゼミナール (演習) (800 番台)
		導入講義	導入演習			
前期課程	1年次	経営学入門 マーケティング入門 会計学入門 金融入門 ビジネス・エコノミクス入門	導入ゼミナール I・II			
	2年次		前期ゼミナール I・II	経営組織論 経営戦略論 経営史 企業と倫理・社会 ビジネス・エコノミクス基礎 I・II	特別講義(企業経営分析) 特別講義(会計プロフェッショナルの実務)	
後期課程	3年次			消費者行動 マーケティング・マネジメント 簿記システム 財務会計(中級) 原価計算 管理会計 マクロ金融論 コーポレート・ファイナンス 資産価格論 学部 GLP 科目の一部	労務管理論 国際経営 イノベーション・マネジメント 学部 GLP 科目の一部 特別講義 寄附講義 企業金融特論 監査特論 など 学部発展科目は、商学・経営学分野の専門的トピックや、最新の話題、最先端の研究成果に触れられる場です。ふるって履修・単位修得することをお勧めします。	自身の関心に応じて、後期ゼミナールを履修してください。
	4年次			自身の関心に応じて履修してください。		後期ゼミナールは、原則として同じ指導教員の下で、2年間継続して履修することになります。
<p>「学士課程ガイドブック2025」 p.107「商学部生の履修モデル」 ⇒CELSの「ダウンロードセンター」から入手可能</p>						卒業するには、指導教員が認めた卒業論文を提出する必要があります。

3) その他

渋沢スカラープログラム (SSP)

■ 渋沢スカラープログラム (SSP)

- 国籍や言語にかかわらず、グローバルな環境で Captains of Industryとしての役割を体現しうる人材を育成することを目的とする
- 2年次から始まるプログラム
- 1年次の終わりに選考が行われるので、興味のある学生は早めに情報収集する(とともにしっかりと学び成績を高める)
- GLP科目は、一部の科目を除き、SSP学生でなくとも3年次以降に履修可能
- 詳細は、渋沢スカラープログラム専用サイト参照
<https://www.cm.hit-u.ac.jp/learning/ssp/index.html>



3) その他

データ・デザイン・プログラム(DDP)

■ データ・デザイン・プログラム(DDP)

- 1年次の終わりに選考が行われ、2年次から従来の専門科目と並行して履修を開始し、所定の単位を修得すると修了証が授与される

■ コンピュータ・サイエンスとデザイン思考を融合した「新しい情報学」に基づく学部横断教育プログラム

- 文系・理系という区分や、商学・経済学・法学・社会学といった学術領域の枠を超えて、企業経営や起業の考え方や知識・スキルを学べる
- 1学年当たり30名(商学部20名、他学部10名)

■ プログラムを構成する科目

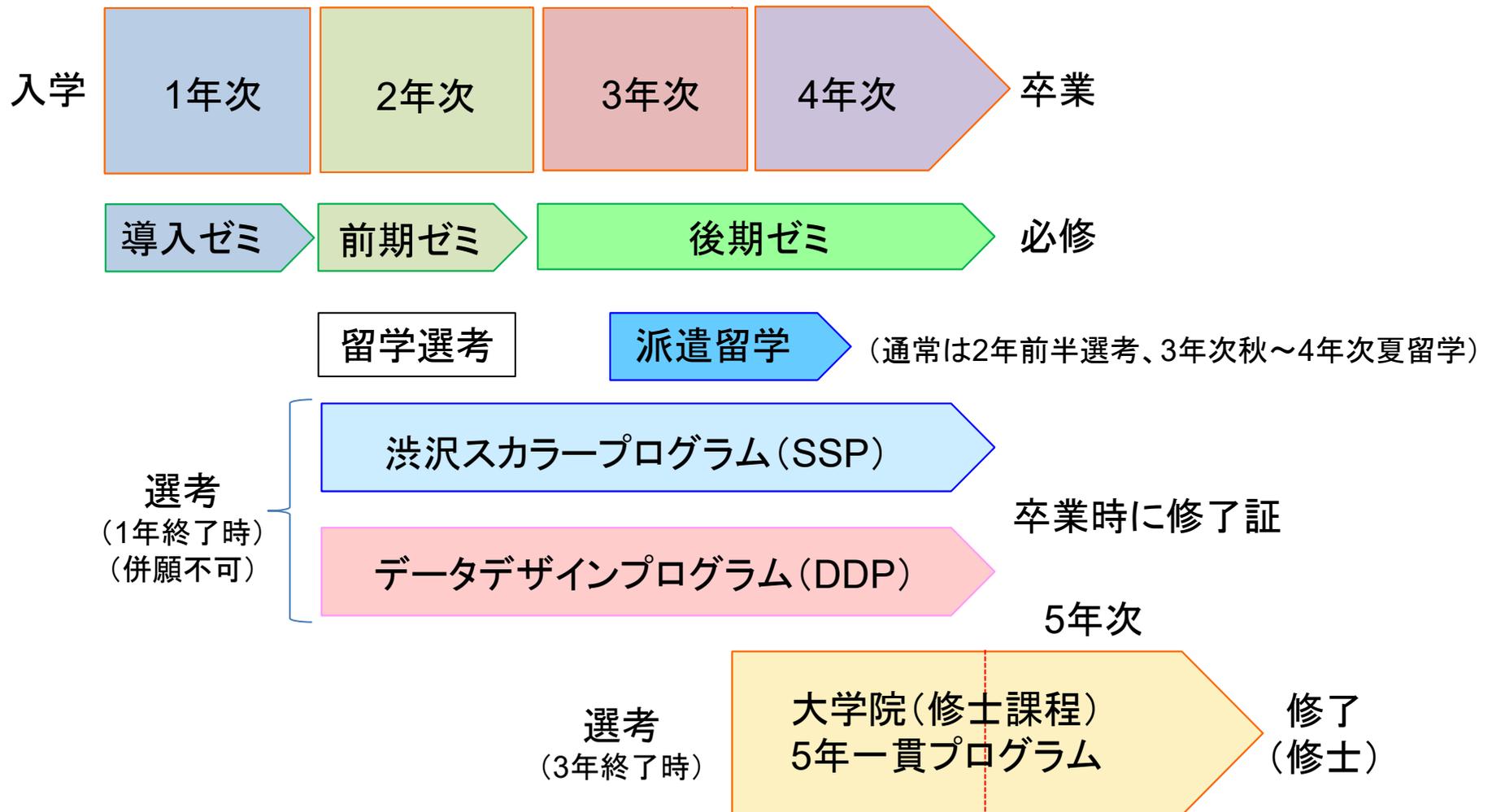
- 必修科目:「AI入門」、「情報科学・統計基礎」、「新商品開発基礎」、「ワークショップ(2年次秋冬学期～4年次春夏学期まで継続)」
- 選択科目:「デザインの基本」、「メディア&サービスデザイン」、「デザイン思考とデザイン経営」など

3) その他

SSPとDDPの位置づけ

- SSPとDDPは、ともに2年次から始まるサブプログラム
 - 1年次の終わりに選考が行われる
 - 募集要項等はCELSを確認
- 卒業のためには商学部の卒業要件を満たす必要がある。それに加えて、SSPやDDPの修了要件を満たすことで修了証が授与される
 - 卒業要件と修了要件を確認して履修する
- SSPとDDPの併願はできない
 - SSPやDDPに参加しても、後述する「5年一貫プログラム」には応募可能

3) その他 入学後の主なプログラム



3) その他

キャップ制と単位修得

■ キャップ制

- 履修登録単位数には上限があり、これをキャップ制と呼ぶ
- ある学期に多くの単位を落としたからといって、次の学期に不足分を補うほど多くの講義を履修して挽回する、といったことはできない
- 1年間の履修登録単位数の上限は44単位
- 各学期の履修登録単位数の上限は14単位

■ とはいふものの、真っ当に取り組んでいれば、3年冬学期終了時に4年ゼミと卒業論文以外のすべての単位を取り終える、ということも可能

- 大学院5年一貫プログラムへの進学を見通したり、就職活動時の負荷を軽減できる
- 1年次からの真面目な受講が重要

3) その他

成績評価: 成績評価基準

■ 講義はA+、A、B、C、F評価（一部ゼミ科目はE/F評価）

- A+（到達目標を達成し、極めて優れている Outstanding）
- A（到達目標を達成し、特に優れている Excellent）
- B（到達目標を達成し、優れている Good）
- C（到達目標を達成し、合格水準に達している Satisfactory）
- F（到達目標を達成していない。不合格 Non-Completion）

■ 最上位Gradeのガイドライン

- A+及びA評価の取得者数は、A+・A・B・C評価取得者数の合計の3分の1以下
- また、A+評価の取得者数は、A+・A評価取得者数の合計の3分の1以下

3) その他

成績評価: GPA

■ GPA (Grade Point Average)

- 5段階評価による科目の成績を点数化した上で、履修科目1単位当たりの成績平均点を求めたもの
- GPAは卒業要件ではないが、海外派遣留学制度や奨学金に応募するときにGPAに関する条件が課されることがある(ゼミ選考でも)
- 上書き再履修という制度もある(学士課程ガイドブックを参照)

評価(Grade)	GP
A+ (到達目標を達成し、極めて優れている Outstanding)	4.3
A (到達目標を達成し、特に優れている Excellent)	4.0
B (到達目標を達成し、優れている Good)	3.0
C (到達目標を達成し、合格水準に達している Satisfactory)	2.0
F (到達目標を達成していない。不合格 Non-Completion)	0.0

$$\frac{4.3 \times A^+ \text{ 取得単位数} + 4 \times A \text{ 取得単位数} + 3 \times B \text{ 取得単位数} + 2 \times C \text{ 取得単位数}}{\text{総履修登録単位数}}$$

3) その他

成績評価: 導入ゼミナール, 前期ゼミナール

1. 授業への出席、授業への積極的な参加、および課題提出といった客観的な基準において瑕疵がない学生については、成績をAとする。
2. 1の基準を満たし、かつ授業内の発言や提出物の内容において特に優れた点が認められる学生については、成績をA⁺とする。
3. 正当な理由のない5回未満の欠席、あるいはそれと同等の課題の未提出といった瑕疵が認められる学生については、その程度に応じて、成績をBあるいはCとする。
4. 正当な理由のない5回以上欠席、あるいはそれと同等の課題の未提出といった瑕疵が認められる学生については、成績をFとする。

※瑕疵: 無断欠席、遅刻、課題未提出、予習・復習不足、講義中の居眠り・私語など不真面目な受講態度など

3) その他

履修撤回について

- 履修登録した科目を撤回することができる
 - 原則として、すべての講義が対象
 - 各学期ごとに履修撤回期間が定められている
 - 期間を過ぎてからの履修撤回は不可

- 履修撤回した科目は成績表に記載されない
 - 履修撤回をした場合、履修登録科目数としてカウントされない(登録可能科目数が元に戻ります)
 - 履修撤回を行わずに履修を放棄した場合には、成績評価はFとなる

3) その他

試験の不正行為と剽窃について

- 不正行為を行った者は、一橋大学学則によって懲戒処分になる。(通常は**停学**)
 - 当該年度の通年科目及び当該学期にかかる科目の履修登録がすべて無効となる。
 - **懲戒処分により停学となった場合**、停学期間は在学期間に算入しないため、**卒業が最低1年間遅れる**。
- レポート、論文において、他者の文章、論理、アイデア(書籍、Webページを含む)を出典を明記せずに引用する行為を**剽窃行為**と呼ぶ。
- 提出論文(レポート)において、文章やデータの盗用(引用の範囲を明示せず、かつ引用元を明記せずに引用すること。データの改ざん・ねつ造も含む)、レポートの流用(他人の書いたレポートを提出すること)、または文章の代筆(他人の代わりに書くこと)をした場合、不正行為とみなされ、懲戒処分の対象となる。

商学部のミッション・ステートメント(一部、再掲)



**WE FOSTER CAPTAINS OF INDUSTRY
WHO CREATE VALUE FOR BUSINESS
AND SERVE COMMUNITIES IN ASIA.**

- イギリスの思想家・歴史家であるトマス・カーライル(1795～1881)の著作に由来するキャプテンズ・オブ・インダストリーの育成は、東京高等商業学校以来、本学にとって重要なスローガンです。これは私たちのミッション・ステートメントのLeadershipに対応します。
- また、「日本資本主義の父」と言われ、本学の設立と発展に多大な貢献をした渋沢栄一(1840～1931)は、『論語と算盤』において営利活動と倫理・道徳の両立を説いています。営利活動の原動力となるのがInnovationであり、Integrityは倫理・道徳の核心です。

<https://www.cm.hit-u.ac.jp/about/mission/>

3) その他

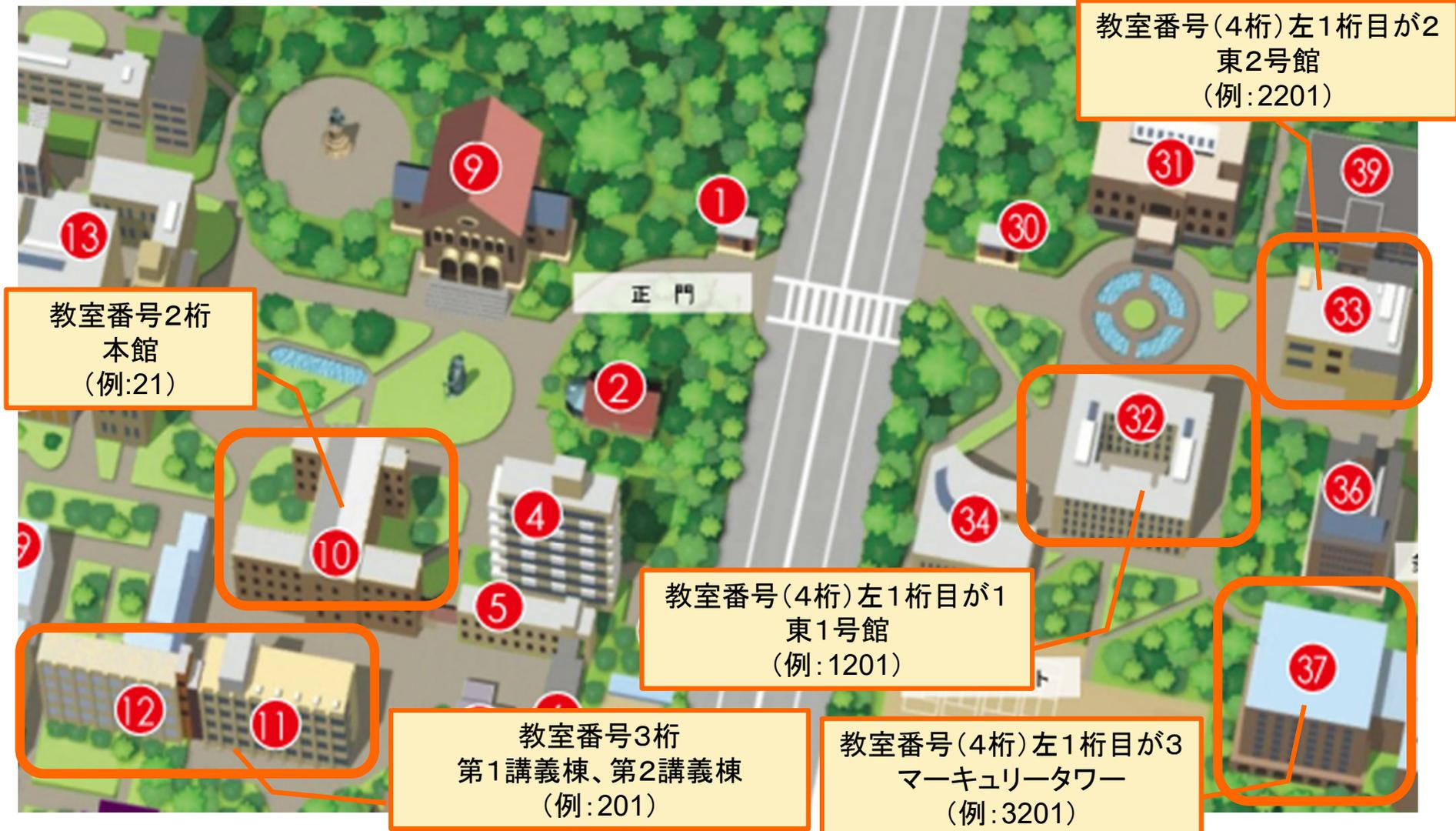
履修規則とガイドブック

- 学部履修規則に関する重要な冊子
 - 『学士課程ガイドブック』(CELSのダウンロードセンター)
- 規則は絶対的な基準である。大学の事務も規則に従って動いているので、いざというときに泣きついても、どうにもならない
- 重大なミスを犯さないよう、履修規則やガイドブックを熟読して、理解する
- 履修規則に関する具体的な疑問がある場合には、教務課窓口(西キャンパス本館1階)で相談すること

履修規則 > 学士課程ガイドブック > 本日のガイダンス

3) その他

教室:()内の例は各建物の「2階の1号室」の番号



目次

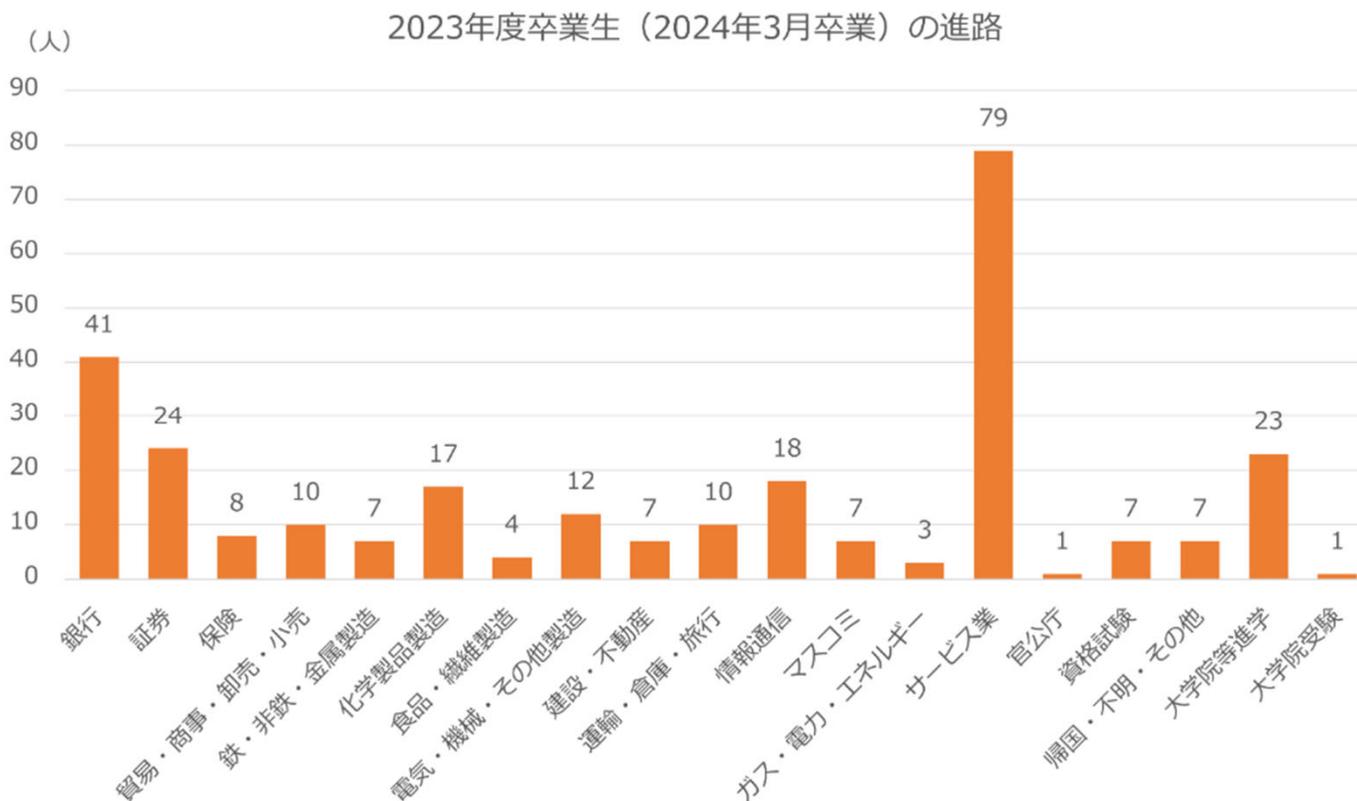
■ 商学部の概要

■ 商学部教育科目について

■ 卒業後の進路

1) 就職

商学部卒業生(2024年3月卒業)の進路



- 以下のサイトには、企業名も掲載されている

<http://www.cm.hit-u.ac.jp/career/achievement/>

1) 就職 就職先を考える

- 自分のキャリアを主体的に考えよう
 - 全般に、就職先は身近で見聞きする範囲で考えることが多いようだ
 - 典型例は「先輩が行っているから」、「自分がその商品を好きだから」。
 - 自分はどのようなキャリアを歩みたいのか、そのために今、何をしなければならないのかを、よく考えよう

- 一般論として、どのような企業・産業が社会に存在していて、どのような事業活動をしていて、どのような業績であるのか、といったことを調べた上で、就職活動の対象企業を選定した方がよい

- 3年次が終わるまでに、必要な単位はできるだけ取る

1)就職

公認会計士受験という選択

■ 公認会計士

- 会計学などの商学部科目に最も近い国家資格
- 受験勉強は大変だが、価値ある資格
- 一橋からも毎年多くの合格者が出ている

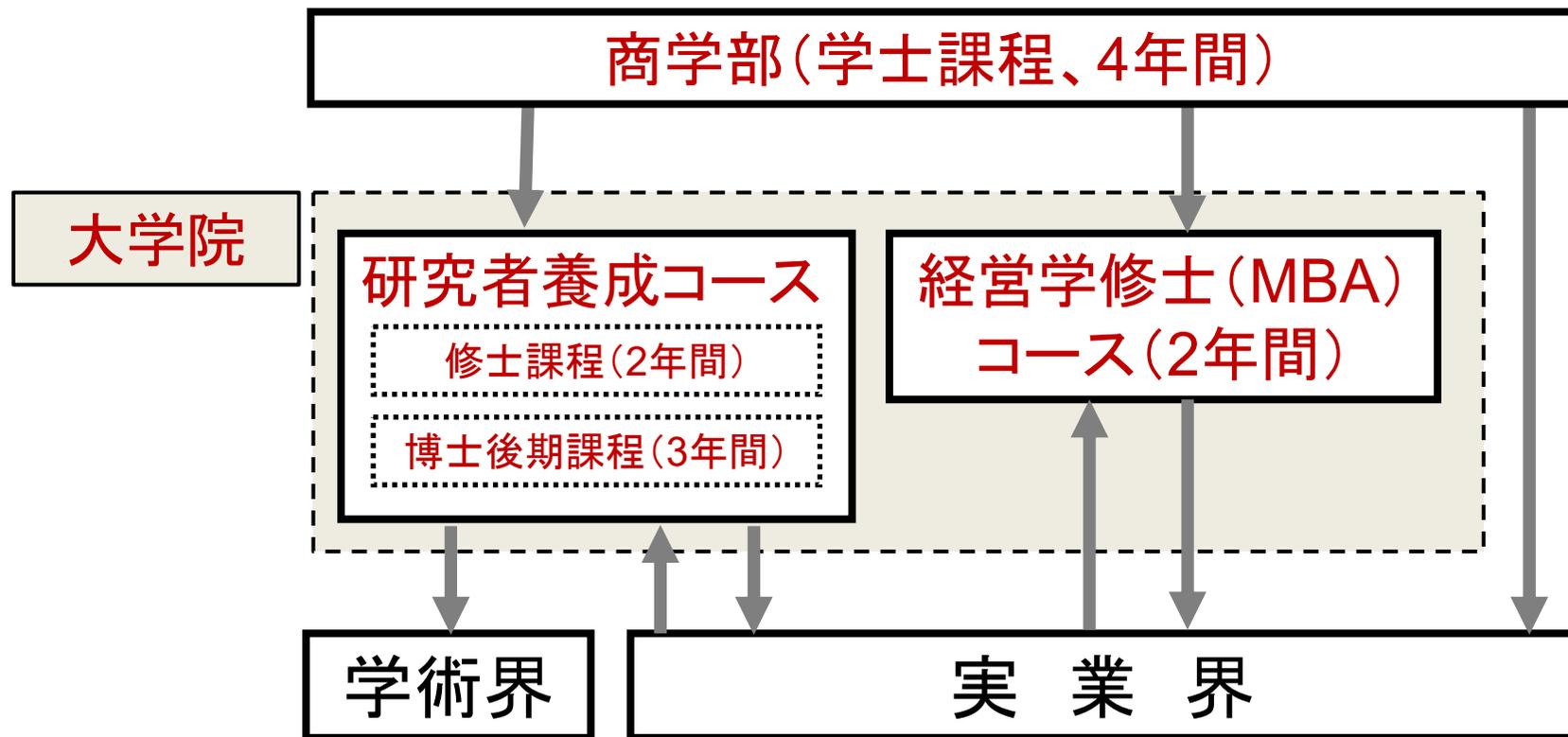
■ 公認会計士の中心的な業務: 監査

- 公認会計士に独占的に認められているのが、株式公開企業などの財務諸表が正しく作成されているかをチェックする仕事(監査証明業務)
- 監査以外にも、株式公開支援やコンサルティング、企業内部の財務・会計業務など、財務・会計に関わる幅広い業務で、多くの会計士が活躍している

■ 「難関試験に受かってハクをつける」という安直な発想ではなく、実際の会計士の業務を理解した上で、一生の仕事にしたいかどうかをよく考えよう

2) 進学

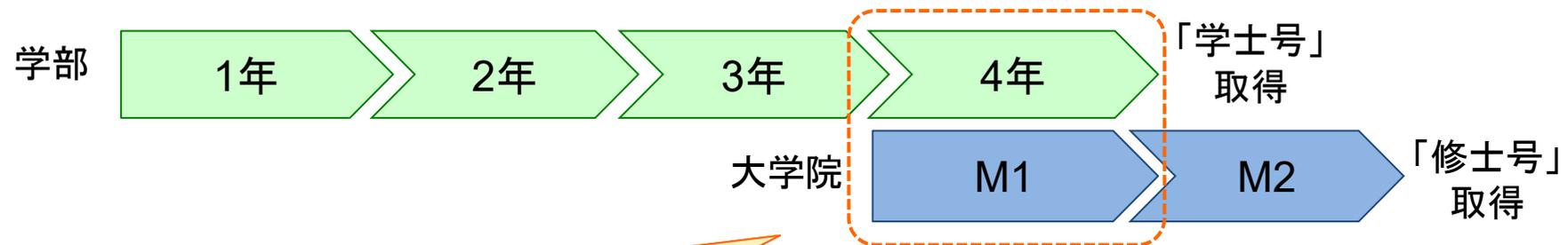
- 商学部・経営管理研究科には、経営学修士(MBA)と研究者養成という、大学院がある



2) 進学

5年一貫プログラムという選択

- 修士号 (Master) の学位を取得するには、通常、学部の4年間と大学院修士課程の2年間の計6年間が必要となる。ただし、5年で修士号が取得できる「5年一貫プログラム」も用意されている
- 5年一貫プログラムの出願要項に関するウェブサイト
 - <http://www.cm.hit-u.ac.jp/learning/#fiveYears>
 - 3年次の2月に選考(成績や口述試験など)がある



多くの成績優秀者は4年次には卒業論文を残すだけとなる。そこで、5年一貫プログラムの学生は、4年次から修士の講義を受講し、学部卒業と同時に修士課程に進学するが、既に4年次に1年分取り終えているので、学部入学から数えて5年間で修士号を取得できる

2) 進学 研究者への道

- 研究者志望者向けには、大学院研究者養成コースがある
 - 一般に、修士課程2年間、博士後期課程3年間の計5年間
 - 経営管理研究科は経営学やマーケティング、会計学、金融論などの領域における、日本の研究拠点
 - 倍率はそこそこあるが、事前にしっかり準備すれば、合格はそれほど難しいことではない

- ポイントは、一生の仕事としたいと思えるような研究領域に、学部時代にめぐりあうこと
 - 「大学の教員」になりたいかどうかではなく、研究に関心があるかどうか重要（「就職がうまくいかなかったから」は論外）
 - 多少なりとも「研究」に関心がある人は、まずは講義に真剣に取り組み、関心を持った領域を一生懸命勉強する

おわりに

- 卒業時に「充実した4年間だった」と思えるように、
 - 10年後、20年後に「大学時代に頑張ってた良かった」と思えるように、
 - 一日一日を大切に過ごして欲しい
-
- ✓ 学士課程ガイドブックを読んだ上で、履修規則に関する具体的な疑問がある場合には、教務課窓口(西キャンパス本館1階)で相談すること